

「間抜けの構造とコロコロとズンズラと将棋倒しの駒抜き」の関係

「バラエティー番組でも、いわゆる『ひな壇芸人』が、司会の人“間”が読めずにコメントしてグズグズ、なんてこともよく見る。共通しているのは“間”が悪いことで、その“間”をコントロールできないから、そんな悲劇も起こる。あえて“間”を外す芸というのもあるけど、それはもちろん正しい“間”がわかっているからこそのものであって、基本が身につけていないのにそれをやると、芸人として悲惨な結末が待っている。

だから、今さら大声で言うことではないかもしれないけれど、“間”を制する者はお笑いを制する、といっても過言ではない。お笑いだけじゃない。映画や絵画や音楽といった芸術、野球やサッカーや相撲といったスポーツ、踊りや茶道といった芸事、そして人生に至るまで、あらゆるジャンルにおいて“間”というものは、決定的に重要なものだ。」

そもそも欧米には“間”にあたる言葉や概念はないはず。だから“間”とは何かを考えることは、日本人を考えることにも通じてくる。

皆さんご無沙汰しておりました！このブログ、もう何か月も「間」が空いてしまいました。実は上の文章はビートたけしさんの「**間抜けの構造**」(新潮新書)という本から抜粋したのですが、非常に興味深くハマってしまい、自分もどんなところにどんな『間』があるのか？研究をしていたら、あっという間に数か月経っていました！（言い訳）

最近最も感動した「間」といえば、やはりサザンオールスターズ復活です。もうどれだけ待ったことか！C調な「間」でさりげなく愛と活力を与えてくれるサザンの歌は今の日本には不可欠です。トヨタドームのコンサートは家族全員引き連れて絶対観に行きます！！



そして最近の気になる「間」として、もう1つ。サッカー日本代表の本田選手と仲間との「間」があります。短所を克服して個人個人のレベルアップを選手名指しで強要しながら敢えてガンガンぶつかっていく「間」。

これはかなり強烈な、あまり日本人っぽくない自我の「間」を感じさせます。仲間にもそこまで要求するということは、自分も他国のエースと比較され批判されるということを潔く引き受けている、敢えて自分をそこに追い込んで成長させていく、逃げ場のない『間』が本田選手の『間』だと思います。



一方『間』をずらすのが好きなのは遠藤選手です。プレイ中もボールの出し入れ、押し引き、緊張緩和のバランスを取って『間』を固定しないように調整しています。ジョーカー的献身です。惜しむらくはヨルダン戦のPKをコロコロシュートできなかったこと。サッカーに限らず、『間』を取るという行為がどれほど勇気がいるかがテレビ画面からもピリピリと伝わってきました。

本田選手の対極は岡崎選手でしょうか？自然な「間」なのでみんなから(おでこ)イジられますが、プレーは本田選手に勝るとも劣らぬ燃える闘魂そのもの。

TA心理学では親(P)・大人(A)・子供(C)の3つの自我状態を状況に応じて自在に行き来できる状態が望ましいとされていますが、今のサッカー日本代表は非常にバランスのとれたいい「間」を持った集団だと思います。

WBCで言うと「じゃけんのう～」と広島弁で締める山本浩二親分に、笑いと鉄拳の両面が使えるアダルトな阿部選手、みんなからアゴをつかまれることでチームを一つにできる内川選手で「P」「A」「C」の「間」を形成していたと感じました。



しかしあのダブルスチールの「間」は残念でしたね。三連覇の熱き夢を目指して走った内川選手の「間」と冷静でリアルな状況判断が最もできる井端選手の「間」という皮肉な組み合わせ。

井端選手ではなく乗りのいい松田選手か

ドカベンの殿馬選手だったならズンズラ♪ズンズラ♪ズラズラズン！「間」で

『逆転の口火を切る創造的ダブルスチール！』、『振り返ると3連覇の夢をつないだ芸術的ダブルスチール！』と称賛されたと思います。

山本浩二監督のあの采配は後でいろいろと議論になりましたが、『走れたら走れ』のあの指示は日本野球の目指す究極のプレーだと感じました。

世界の頂点を決めるような試合では、単なる管理野球ではなく、スモール&アーティスティックな「間」の日本オリジナルな野球を見せてもらいたいです。

スペイン、ブラジルのようにはできない日本サッカーとは違い、野球はもう日本人の究極能力をプレイで世界に表現してもいいレベルに来ていると思います。

また4年後も逆転の口火を切る象徴的なプレーとしてダブルスチールをノーサイン(選手同士の間)で敢行してほしいと思います。



国際社会では言葉にして意思をはっきりと伝えることが大切であり、日本人の大切にしている「以心伝心」の能力などはガラパゴス並みに貶められています。が、「以心伝心」の人間関係や料理の「うまみ成分」や多様な「間」の文化というものは目には見えなくとも日本人が先祖代々受け継いできた宝物として大切に磨き続けていかななくてはならないと思います。

我々の作業現場においても、事故は重層的要因の将棋倒しで発生するといわれています。ヒューマンエラーは間抜けの構造と見たり！しっかり「間」を取って夏の連休工事に臨みたいと思います！

感謝！ 羽原篤史

